

紫西会報

第 56 号

発行所

茨城県筑西市下中山590

茨城県立下館第一高等学校

紫西同窓会

TEL (0296) 24-6344(代)

FAX (0296) 25-4673

印刷所 戸 頃 印 刷 所

戦後八十年、沖縄を訪れて

紫西同窓会長 林 廣 明

(第四十一回卒)



新年、私と妻、そして子供達家族7名で沖縄に旅立ちました。

約四十年前ぶりに飛行機の窓から下界を見下ろすと、真っ白な雪でおおわれた雲海の上を、飛行機はゆっくりと目的地沖縄に向かって飛び立ち、約3時間半で沖縄に到着しました。

翌日、私達は今回の目的地「ひめゆり平和祈念館」を訪ねました。記念碑には大勢の人達の祈りが込められた献花が山のように積み重なり、心が

熱くなりました。

八十数年前の沖縄戦で日本軍は戦場真つ只中で、学徒隊に解散命令を下し、年端も行かない生徒らを米軍の包囲網の中で投降を許さず、地獄の戦場に放り出したのです。この解散命令が学徒隊の犠牲を更に悲惨なものにし、陸軍病院に動員された二四〇人中一三六六人、その他地域でも九一人、学徒職員併せて二二七人の尊い命が失われたのです。今、私達は何の生命の危険にさらされることなく、平穩

な日々を享受しております。この平和な私達の生活は、これまで多くの人の犠牲によつて、築かれたことを忘れてはなりません。

そして、私達はこの平和と自由に感謝し、それぞれの夢に向かって一歩一歩前進するのです。

伝統の歌会始の儀に本校の誇り 菅野公子さん(S56年卒) 入選の快挙



歌会始の儀当日の菅野さん(写真提供:ご本人)

1月14日に皇居・宮殿で催された「歌会始の儀」において、本校を昭和56年3月に卒業した菅野公子さんの歌が詠進数一四、六〇〇首の中から選ばれ、天皇皇后両陛下の御前で読み上げられました。入選者は10人ですので快挙と言えるでしょう。昨年12月25日の茨城新聞でも大きく紹介されました。

菅野さんは茨城大学で国文学を専攻し、現在は茨城キリ

スト教学園高校で講師を勤める傍ら、二〇一五年から歌会始への応募を続けていました。

宮内庁のホームページによると歌会始の起源は、天皇が年の始めの歌会として催す「歌御会始」にあり、鎌倉時代中期まで遡る事ができるとのことです。この長い歴史を有する宮中の歌会始の様子を、当日参内した菅野様に伺いました。

スクリーンに明朝体の文字並び、
「チヨークの音のしな
い教室」
(お題「明」)

右の歌を入選歌として採っていただき預選者の一人として去る一月十四日に、令和八年歌会始の儀に参列いたしました。気温は低いものの晴天に恵まれ皇居の宮殿は明るく新春の光に包まれていました。

この歌は、デジタル化が進み、スクリーンやタブレットを使う場面が増えた最近の授業の様子を詠んだものです。勤務校ではホワイトボード設置の新校舎もありますので、黒板を消して書き込んだりなどということも少なくなりました。が、そんなある日、黒板にチヨークで板書をする音が聞こえてきて「ああ、この音はいい音だな。」と感じたのが作歌のきっかけです。

儀式のあと、天皇陛下から「チヨークの音を懐かしく思い出しました。」とお言葉をお送りしました。共感いただけただのと大変嬉しく感じました。

同じお題で歌を詠む歌会始は、皇室と国民とをつなぐ特別な行事です。来年のお題は「旅」とのこと、皆さまも是非一首詠んで詠進してみてください。

熱い応援ありがとうございます

ございます！

校長 木村 功



紫西同窓会員の皆様には、今年も「熱い応援」をいただきまして誠にありがとうございます。

○本校の近況と生徒の活躍
附属中学校からの内進生の六カ年教育、高校での進学重視型単位制の完成、各教科を軸とした探究をはじめとする横断的学習、高校からの入学生の能力との融合や生徒個々を高め合う協働などを充実させ、生徒の主体性を軸に学力を含めた「成長」を支援しております。盛んな部活動では今年度も登山部、ライフル射撃部、弓道部、文芸部の短歌部門、理科部、写真部で上位

大会に進出していきます。大学入試では総合型選抜や学校推薦など年内入試で多くの桜が咲いています。これから進路実現のため受験に向かう生徒

は日々学習に邁進しております。きつとこの会報が発行される頃には近年にないような実績をあげた生徒たちの喜びで溢れているのではないかと期待に胸を膨らませております。

○新しい教育活動本格化

教員の授業改善チームがリードし、生徒の主体性と学力を育む手法について日々研鑽しております。探究学習での個人課題研究、DX（デジタルトランスフォーメーション）事業での企業連携による最高技術に関する研究、グローバル教育事業ではオーストラリア研修の充実だけでなく

海外からの学校訪問（令和八年度実績は台湾二校、香港一校）による生徒交流を進めています。これまでの伝統や教育活動との相乗効果で、生徒の意欲的かつ積極的な一面がたいへん多く見受けられるようになりまし

た。地域探究からは「筑西レファフェ」をクラウドファンディング活用と多くの方々の協力を得て、地域を元気づけるためのイベントを開催しました。英国オックスフォード大学での国際教育プログラムでは、県内参加三名中二名が本校生徒であり、その成果を知事に説明するため表敬訪問してきました。DX（デジタルトランスフォーメーション）事業では乗用車の自動運転研究がDISCIN

YOUTH EXPO 2025（令和八年一月二十四日水戸市民会館）に選出されました。また、大臣表彰を含め多くの表彰を伝達いたしました。

○紫西同窓会からの熱い支援に感謝
百周年記念事業の一環として、同窓会のご理解や設計・施工にご尽力いただき改修が済んだ紫西会館二階は、生徒の学びの場として活用が進ん

でおり土曜日を含め自学利用が増えています。ご寄付を基金として生徒の教育活動支援に活用させていただきます。部活動上位大会へのお祝いや予備校の超有名講師講演会により意欲を喚起したり、オーストラリア海外研修においては参加者全員に金銭的援助をいただいたりと生徒に還元させていただいております。

また、ベトナムでのセキシヨウジオブフェアに本校生徒をご招待いただいて国際的な活躍への門戸を開いていただいたり、同窓会総会ではたくさんさんの本を寄贈申し出をいただきました。朝の空気を感じながら歩いている気分でした。が、実際には車で通勤していたことを懐かしく思い出します。久しぶりに校舎を目にした瞬間、当時の記憶が一気によみがえり、再びこの地で働けることに喜びを感じました。

今まさに次の百年に向けた「館二」の本当のスタートを切れたのではないだろうかと感じています。これらの効果は数年後に必ず現れると思いますので今しばらく期待しながらお待ちください。紫西同窓会の皆様、引き続き応援いただきますようよろしくお願いいたします。

この四月に本校へ赴任いたしました。実は二十年ほど前にも一年間だけ勤務しており、当時は校舎のすぐ近くにあった教員住宅から通っていましたが、朝の空気を感じながら歩いている気分でした。が、実際には車で通勤していたことを懐かしく思い出します。久しぶりに校舎を目にした瞬間、当時の記憶が一気によみがえり、再びこの地で働けることに喜びを感じました。

新任の先生よりメッセージ

下館一高・附属中に赴任して

教頭 田口 純貴



と変わらない本校の大きな魅力です。さらに近年では、探究の授業が非常に熱心に行われており、生徒が興味関心を深く掘り下げ、仲間と議論を交わしながら学びを広げていく姿に、頼もしさを感じています。

また、海外との交流も以前より幅広く展開されており、国際的な視野を身につけながら学校生活を送る生徒が増えてきたことも印象的です。進学校としての伝統も変わらず、二十年前の私は授業準備のために必死で勉強していたことを思い出します。現在でも、生徒の真剣な学びに心えるため、先生方が日々研鑽を重ねている姿に心を打たれます。

百年以上の歴史をもつ本校に再び関わることができ、大きな喜びと責任を感じております。懐かしさと新しさが調和するこの環境で、生徒がより充実した学校生活を送れるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

す。

下館一高・附属中に赴任して

吉井 美幸



合格に向けて懸命に挑戦しています。何度失敗しても諦めずに跳び続ける姿は、世代を超えて脈々と受け継がれてきた本校の強い精神力であると改めて実感しました。

今年は冬季オリンピック開催年でもあり、高い目標に挑み続ける世界のトップアスリートの姿は私たちに大きな勇気と感動を与えてくれます。生徒たちも同様で、各々が掲げる目標に向かって日々地道な努力を積み重ね失敗を恐れず着実に成果へと繋げていける力があると信じております。

春の定期人事異動にて土浦二高より赴任してまいりました。百年の歴史を掲げる伝統校に着任し、その重責に身の引き締まる思いでございませう。4月以降印象に残ったのは生徒の質の高さです。学習に向かう真剣な態度、知的好奇心の高さと程よい緊張感、互いを尊重しつつ高みを目指して切磋琢磨する光景は本校が長年培ってきた校風であると感じました。保健体育を担当し生徒たちの主体的且つ積極的に、生き生きとそして遊びのびと活動する姿は心が躍ります。中でも伝統の一つとして受け継がれてきた「縄跳び検定【昭和46年制定】」に臨む姿にも深く感銘を受けました。一見素朴な取り組みですがどの生徒も真剣そのもので

報 会 西 紫
た。一見素朴な取り組みですがどの生徒も真剣そのもので

下館一高・附属中に赴任して

佐次 康子



昨年度まで中学校に勤務しておりましたが、新規採用で赴任いたしました。英語を担当しております。

母校に勤務することになり生徒として、保護者として（長女がお世話になりました）教員として下館一高に関われることを大変光栄に思っています。

3月に卒業を祝い、入学時に教えた子どもと再会し、そして学校生活を共にできることをうれしく思います。また、2、3年次生にも教え子がおおり、大人びた表情になり、成長した姿を見たときは、感慨深いものがありました。廊下で挨拶してくれたら、話をしたりすることは私の心の支えになっています。

また野球の全校応援をできることが感激でした。私自身は、3年次でしか応援に行けませんでした。級友たち（館

野先生が主将でした）が白球を追いかける姿に感動したのを今でも鮮明に覚えています。みんなで応援するあの一体感、打席に立つ選手の緊張感、一生懸命プレーする姿への感動、共に味わう歓喜が大好きです。高校球児の母だった私は、これからも応援団の一員として応援させていただきます。

礼儀正しく、課題に熱心に取り組む姿、暗くなるまで部活動に一生懸命に取り組む姿、自主的、積極的に行事運営に取り組む姿、生徒たちのそういう姿を見るたび、とても誇らしく思います。皆さんなら文武両道のみならず、文武両立を目指し、進路実現に向かっていけることを信じています。

将来、地域や茨城を、そして日本を支えるであろう人材と学校生活を共にする責任を感じながら、時には近所のおばちゃんのように見守り、教員として生徒たちが日々成長できるようサポートしていきたいと思っております。よろしくお願いします。

下館一高・附属中に赴任して

河原井 孝広



今年度より下館第一高等学校に赴任いたしました河原井と申します。教科は数学を担当いたします。

本校には、私が高校生の頃に3年間お世話になった数学の恩師が在籍されています。当時の私は、自分ひとりでは解決できないような難しい問題に出会うたびに職員室へ足を運び質問していました。理解できないものかしさをぶつけてしまつこともありました。が、先生は嫌な顔ひとつせず、丁寧に向き合ってくださいました（もしかすると内心困っていたかもしれませんが）。先生と一緒に考える時間は私にとって非常に有意義なものでした。今度は私が、生徒の皆さんに「難しいけれどおもしろい」と感じられる学びの時間を提供したいと思っております。

数学には、問題を解くための多様なアプローチがあります。例えば「ゴールから逆算して考える」「とりあえず試してみる（実験してみる）」「図やグラフを用いて解釈を変えてみる」「他分野の考え方を活用する」「規模を小さくして考える（一般化されたものを具体化する）」といったものです。さらに数学では、「言い換えて整理する力」や「ルールや条件に目を向け異なるものを共通の構造として捉える力」なども養われます。これらは数学に限らず、様々な場面で役立つ「問題解決の基礎体力」となると考えています。生徒の皆さんには、数学を通してこうした思考の幅を広げ、自分で考えることのおもしろさを味わってもらえるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



報下館一高・附属中に赴任して

酒 寄 康 典



今年度、真壁高から赴任いたしました。芸術科（音楽）を担当しております。教諭として母校の教壇に立つ機会に恵まれたことに感謝すると同時に、身が引き締まる思いで日々勤務しております。さて、普段生徒の皆さんと共に学校生活を送っていると、ふと自分の高校時代を思い出すことがあります。私の高校生活は吹奏楽部一色でした。部活のために登校していたと言っても過言ではないくらい、熱中していました。授業中は机に向かいながらも、上の空。「早く放課後にならないかぁ」などと考え、帰りのSHR・清掃が終わると一目散に音楽室へ行き、部員間で色々と議論しながら必死に練習する毎日でした。土日も練習。夏の合宿もありました。が、高3最後の夏のコンクールでは、目

標としていた金賞に届かず、会場の外でみんな号泣。数千年経った今でも鮮明に覚えています。結果は出せませんでしたが、今でもつながっているかけがえのない仲間や当時の顧問の先生方、OBの先輩方に出会い、支えていただきながら大好きな音楽にのめりこむことができたことは私の人生において財産となっています。本心に感謝しています。

皆さんは、今熱中しているものは何かありますか？部活動、勉強、趣味：「今しかできないこと」、自分が「これだ！」と思うものに出会えたら、是非とことん取り組んでみてください。失敗してうまくいなくても諦めず、やりきった後には他では得られない何かを得ることができるでしょう。この館一での学校生活が、皆さんの人生にとってかけがえのない財産になるよう、微力ながらも精一杯サポートしてまいります。よろしくお願いいたします。



下館一高・附属中に赴任して

岩 上 哲 也



今年度、下館第一高校に赴任してきました。大学卒業後、小学校、中学校、高校で講師として勤務し、古河第一高校で5年、水海道第一高校で7年勤務してきました。

専門は公民です。主に倫理・政治経済・公共を担当してきました。少しでも生徒の皆さんの進路実現のお手伝いをさせていただければと思います。現在、地歴・公民で何を選択したらいいのかみんな悩んでいましたね。これから何かあれば一緒に考えていきましょう。

部活動はサッカーです。クラブチームで指導を始め、古河一高、水海道一高で顧問として指導し、または選手と一緒にボールを蹴ってきました。これまでと変わらずに一緒にやりながら、みんなと成長していければいいと思って

います。本校では、「巡回指導」を新たに始め、これまで保育園に出向いて、園児にサッカー教室を開催しました。また「探究活動」の一環で園児の学習・生活支援ボランティアでは、多くの生徒が参加してくれて、とても感謝しています。

今後ともよろしくお願いいたします。

下館一高・附属中に赴任して

仙 波 聡 美



今年度、下館第二高等学校から赴任しました。担当教科は国語です。

本校に赴任して早くも一年が経とうとしていますが、まだまだ慣れない面も多く、助けていただきながら何とか仕事をさせていただいているところです。

さて、下館一高に来てすぐの頃、昼間一度もチャイムが鳴らないことに驚きました。

また、自分たちで時計を見ながら行動している生徒の姿には非常に感心させられました。私も卒業生ではありませんが、当時はチャイムも普通に鳴っていましたし、授業も50分でしたし、制服も今の生徒ほどかっちりとしていなかったのです、まるで違う学校に迷い込んだような気さえて、このような立派な人たちの中でいい加減な仕事はできないと思いました。

さてその後立派な仕事が出てきているのかという話ですが、今日この原稿は締切日の終業時刻一分前に書いています。まだ生徒の前では締切破りは踏みとどまっていますのでご容赦いただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

下館一高・附属中に赴任して

北 條 奈 緒 美



この度、下妻二高から赴任

いたしました。担当教科は英語です。

下館一高に勤務して数ヶ月が経ちました。生徒の皆さんの素直さ・誠実さを感じる毎日。心が温かくなっています。反面、皆さんが時代の波に飲まれてしまわないか心配になることもあります。解のない物事に向き合うのは大変なことですが、自分の選択や判断に誇りを持って欲しいと思っています。

今は、検索すれば情報がすぐ手に入り、効率やコスパが重視される時代です。欲しいものはスマホを数回タップすれば届き、物質的な不便さを感じることも少なくなりました。その便利さゆえに、いざ大切な選択をするとき、決断のハードルを必要以上に高くしてしまっている人もいるのではないかと感じています。

自分の高校時代を振り返ってみます。時は平成。流行は我々が生み出しているという自信を持ち、根拠のない自信に満ちていた気がします。今思えば青さが恥ずかしい限りですが、その無敵感高校生だからこその持てるものです。高校生は本来、怖いもの知らずに、

どんなことでも挑戦できる存在。正解だけを求めて縮こまって過ごすには、あまりにももったいないのです。舗装された安全な道だけでなく、ときには思考を重ねながら砂利道を進むような経験も価値があります。迷ったときは守りに入らず、自分センサーが拾った方を選んでみませんか。館一ライブを共に歩めることに感謝しつつ、生徒の皆さんにこれからどんな出会いや成長が待っているのか、とても楽しみです。

下館一高・附属中に赴任して

渡邊 浩太



報学

今年度、鹿島灘高等学校より赴任いたしました。理科(化学)を担当しております。

会 下館一高の生徒の印象として、素直で真面目な生徒が多いと感じております。目を見て挨拶をしてくれることや、授業に集中して取り組む

姿から、当たり前のことを当たり前に実行できる生徒が多い学校であるという印象を受けました。当たり前のことを継続して行うことは、簡単なように見えて実は難しいことです。スマートフォンや動画配信サービスなど多くの誘惑がある中で、自らを律し、考

えて行動できることは、大変素晴らしいことだと感じています。また、学校行事において、生徒自身が主体となつて考え、企画・運営を行っている点にも強い感銘を受けました。

私は理科の授業を通して、「疑問を見つめる力」、そしてその疑問を「自ら解決しようとする力」を育みたいと考えております。日常生活の中には多くの疑問が隠されており、それらに向き合い、解決しようとする過程が、生徒一人ひとりの「生きる力」につながっていくと考えています。授業内はもちろん、授業以外の場面においても、生徒がより成長できるよう精一杯サポートしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

下館一高・附属中に赴任して

坂 優佳



今年度、情報科教諭として新規採用で赴任しました。

唐突ですが、皆さまは「情報科」と聞いてどのような印象を抱かれますか。

私が高校生の頃には現在の情報Iという科目は存在せず、私が履修したのは「社会と情報」という科目でした。ワープロと表計算ソフトを使った授業が記憶に残っています。現在の情報Iでは情報倫理、情報デザイン、データサイエンス、プログラミングなど幅広い内容を取り扱っています。

情報技術は日進月歩で進化しています。予測困難な未来を生き、望ましい情報社会の創造に参画する生徒には、情報に関する知識を一つでも多く身に付け、実生活に役立ててほしいと願っております。情報リテラシーや情報活用

能力は生徒の方が長けていることもあり、授業をしていて驚くこともしばしばです。

生徒がこれまで安全に情報機器を扱っているのは、保護者の皆さまが、ご家庭でお子様と利用ルールを作成し、そのルールを大切にできるような信頼関係を築いてくださっているからだと拝察いたします。

生徒が生涯において情報技術の恩恵を最大限に享受できるように、私は情報科教諭として、今すぐにでも役立つような授業を心がけていきます。そして、今度は生徒が周りの人のことも大切にできるように、生徒と一緒に情報社会の光と影を考察していきたいと思います。

結びになりますが、生徒と保護者の皆さまに期待していただけるように日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

下館一高・附属中に赴任して

西川 水葵



今年度、新規採用の国語科教諭として赴任いたしました。教諭一年目という、不安定な私をあたかく迎え入れてくださったこと、感謝しております。

突然ですが、私が出会った大切な一節を紹介したいと思っています。それは「知っている言葉が増えるとそれだけわかる気持ちも増える」というものです。古典などを通して、昔から今に繋がる言葉や感覚に触れてみる、そうして触れてきたものを活かし、相手に寄り添う、そんな思いやりをもった人が増えたら幸せだなという思いと共に教諭になりました。

ただ、教諭一年目はなかなか思うように仕事ができず、私自身が焦りや不安でいっぱいになってしまつこともありました。しかし、そんな時は

いつも生徒の皆さんのあたたかな言葉に助けられました。その度に、下館一高の生徒の皆さんには、既に相手の心に寄り添うことのできる言葉の力が備わっていると気付かされました。その素敵な力をさらに相手のため、そしてこれからの自分自身のために活かしていけるように、共に成長していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

下館一高・附属中に赴任して

新井 康芳



この度、地歴公民科を担当させていただきます。新井と申します。再び生徒の皆さんと教壇で向き合えることに、喜びと責任を感じております。

私たちは今、AI(人工知能)が人間を超える転換点に直面しています。技術が猛烈な速度で進化する中で、もし

AIの利便性だけに頼りきってしまつと、「独自の思考は不要」とAIに主導権を奪われ、「AIに使われる側」になる危険性があります。この未来のリスクに対し、教育を通じて備えることが急務です。

そこで、地歴公民科の学びが極めて重要になります。歴史は単なる暗記ではありません。「なぜ、その時代の人々はそう判断したのか?」現代の私たちは、その選択から何を学ぶべきか?という問いを深く追求する学問です。AIは合理的な「答え」を出せますが、「人間として、どう生き、どう判断すべきか」という、倫理的・価値的な問いに向き合い、真剣に悩むことはできません。

この深い思考力と判断力を養うため、私は授業でAIをはじめとする新しい技術(ICT)を積極的に活用していきます。これらは、広大な情報を調査し、思考を整理するための「強力な道具」となり得ます。

私は、生徒の皆さんがAIを単なる道具ではなく、自己の可能性を最大限に引き出す「賢い相棒」として使いこなす

側になつてほしいと強く願っています。未来を切り拓く知性を育むため、全力で授業に臨みます。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

下館一高・附属中に赴任して

鈴木 亜紀



今年度、下館一高から赴任し週三日の勤務をさせていただくことになりました。教科は保健体育で、高校二年生と中学三年生の授業を担当しております。

下館一高に赴任して感じたことは、主体的に行動できる生徒、様々なことに意欲的にチャレンジする生徒が多いことです。自身の高校生活を振り返ると、辛く厳しい部活動が思い出されます。ある意味充実した三年間であったとは思いますが、主体的に行動することなどなく、決められたことと与えられたことを繰り返す毎日でした。

下館一高には、文化祭やクラフスマッチ等の学校行事において執行部として企画・運営に参加できることや探究活動、グローバル教育、地域連携活動等、生徒自らが選択してチャレンジする機会が数多く設けられており、素晴らしい環境が整えられています。

現代社会において若い世代に求められている力「社会人基礎力」。アクション・シンキング・チームワーク、下館一高は自らのキャリアを築き、社会で活躍し続けるための土台となる重要なスキルを身につけることができる学校であると思いました。そして、このような素晴らしい環境の学校に勤務できることを大変うれしく思います。

微力ではありますが、下館一高生の力になれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



下館一高・附属中に赴任して

鈴木 佐与



今年度、土浦第一高等学校から赴任しました実習教諭の鈴木です。実習教諭の担当業務は、学校によって違いますが、主に図書館での学校司書、理科実験や家庭科実習の準備、授業中のサポートになります。前任校では、化学や生物の毎日の実験準備に四苦八苦していました。

さて、創立百周年を迎えた伝統ある本校に赴任し、歴史ある本校で働くことの重みを感じながら、私自身、新しい学びを積み重ねているところです。生徒の皆さんは、とても素直で、いつも挨拶してくれます。当たり前のことですが、中々できる事ではありません。また、自分の目標に向かい真剣にそして真摯な態度で取り組んでいる姿に、私自身も、しっかりと本気で向き合わなくてはいけないと気を引き締めています。

本校では、図書館での業務が主になりますが、「新しい知識に出会える場所」として、読書は勿論ですが、探究活動や調べ学習の一端を担えるように準備をしていきたいと考えています。また、「ほっと一息つける場所」としての役目を担い、心を休め、心を整える場所としても活用してきたいと思います。

大変嬉しく、そして身の引き締まる思いで赴任いたしました。

前任校は外国にルーツを持つ生徒が多く在籍する学校でした。英語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、ウルドゥー語……。

廊下では様々な国の言葉が飛び交います。生徒達は積極的にコミュニケーションを取り、日本語や日本の文化を学ぼうとしています。

勇気をもって一歩踏み出せば、どんなに言葉が通じなくても、相手を理解し尊重する気持ちは必ず伝わり、自分次第で新しい世界が広がることを教えてもらいました。

下館一高・附属中に赴任して

広瀬 律子



今年度、結城一高から事務職員として赴任いたしました広瀬と申します。どうぞよろしくお願い致します。

創立百年を超える歴史ある下館一高の一員となること

大変嬉しく、そして身の引き締まる思いで赴任いたしました。

前任校は外国にルーツを持つ生徒が多く在籍する学校でした。英語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、ウルドゥー語……。

廊下では様々な国の言葉が飛び交います。生徒達は積極的にコミュニケーションを取り、日本語や日本の文化を学ぼうとしています。

勇気をもって一歩踏み出せば、どんなに言葉が通じなくても、相手を理解し尊重する気持ちは必ず伝わり、自分次第で新しい世界が広がることを教えてもらいました。

五年間勤務した前任校を離れ、不安と緊張でいっぱいですが、私も一歩を踏み出して、下館一高の生徒の皆さんが、安心して充実した学校生活を送れるよう、微力ですがサポートさせていただきますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。



進路指導の現状

学習進路部長 薄井裕美

【近年の入試概況】

大学入試は今、大きな変革期を迎えています。大学全入時代を迎えつつある中、必要な情報を見極めた上で、自身の進路を選び取る力が今まで以上に求められています。

ここ数年、社会の要請に応じて新しい学部・学科の設置が続いています。キーワードとして挙げられるのは、デジタル、グリーン、地域、共創などです。特に、デジタル・グリーン等の成長分野については、それを担う理系人材の不足を解消すべく、国を挙げて支援が実施されています。

入試の多様化も進んでいます。学校推薦型選抜や総合型選抜等、年内入試における募集人数の拡大と志願者の増加、英語民間試験利用入試の広がり、女子枠の増加などの動きは今後も続くと思われるでしょう。

紫西会報

このような状況を鑑みると、社会の変化を見据え、自分が将来どのように社会に貢献したいのかをよく考えたうえで、進路選択、大学選びを

することが、これまでよりも一層重要になってくると言えます。

【本校生の状況】

2025年3月の卒業生は、国公立大学に69名が合格しました。内訳は学校推薦型選抜・総合型選抜15名、一般選抜前期40名、中期3名、後期11名でした。茨城大学には学校推薦型・総合型5名、前期7名、後期4名、筑波大学には学校推薦型3名、県立医療大学には学校推薦型2名、前期1名、宇都宮大学には学校推薦型・総合型3名、前期7名、後期1名が合格しています。

私立大学については、学校推薦型・総合型選抜で47名、一般選抜でのべ439名が合格しました。
(主な大学合格者数及び進路決定先人数につきましては、別表をご覧ください。)

2026年3月卒業生(現3年生)は、学校推薦型・総合型選抜で、国公立大学に11名、私立大学に40名が合格しています。(1月10日現在) 1月17、18日に実施された大

学入学共通テストには228名が挑戦しました。

進路希望を叶えた生徒は、基礎・基本の大切さをわかっていました。授業の内容をしっかり理解すること、わからないところはそのままにしないことを心掛けながら毎日の学習に取り組み、自分の勉強法を確立しています。

ある卒業生の言葉です。「自分が合格した一番の理由は、早く始めたからです。一年の春休みから始めたおかげで、二年の夏休みには学習習慣ができました。どの学習にも言えることですが、いっぱいやりましょう。量は量をこなしていくうちによくなっていきます。もちろん手だけ動かしなくても意味がないので、他の問題にどう繋げるか、本番で出たらどう対応するかなど、有機的に考えてやりましょう。重ねた勉強時間は自信にもつながります。」

入試の環境は変化しても、重視すべきことは変わりません。授業を中心に、毎日少しずつ努力を積み重ね、自分の進路は自分で決めるという意識を持ち、最後まで粘り強く取り組む一高生であってほしいと思います。

【本校の取り組み】

本校は、様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダーを育成することを目指しています。多様化する入試に対応し、生徒一人一人の十年後、二十年後の未来を見据えた指導をしていきたいと考え、様々な取り組みをしています。今年度の主な進路行事は以下の通りです。(予定含む)

高3

- ・進路講演会(生徒)
- ・志望理由書講座
- ・小論文講座・模試
- ・茨城大学学部説明会
- ・宇都宮大学学部説明会
- ・GMARCHの英語講座

高2

- ・進路講演会(生徒・保護者)
- ・大学見学会
- ・小論文講座・模試
- ・志望理由書講座
- ・合格者との懇談会

高1

- ・進路講演会(生徒・保護者)
- ・企業訪問
- ・紫西ブレカレッジ
- ・小論文講座・模試
- ・合学年
- ・平常課外(朝・放課後)
- ・夏季課外

進路状況

1/16 現在

- ・紫西CS
- ・学校開放
- ・難関大医学部進学支援講座
- ・医学セミナー

・医療系小論文講座
(各行事の内容につきましては、HP等をご覧ください。)

国公立大学 (11名)			私立大学 (40名)		
東北大学	1名	東京家政大学	1名	東京国際工科専門職大学	1名
茨城大学	5名	東京女子大学	1名	アール医療専門職大学	1名
筑波大学	1名	東京電機大学	1名	専門職大学 (2名)	
県立医療大学	1名	東邦大学	2名	・アール医療専門職大学	
宇都宮大学	1名	日本体育大学	1名	・東京国際工科専門職大学	
埼玉大学	1名	法政大学	1名	・専門職大学 (8名)	
都留文科大学	1名	明治大学	1名	・茨城県立看護大学	1名
		明治学院大学	2名	・大宮医療専門学院	1名
				・東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校	1名
				・東京デザイン専門学校	1名
				・東京コミュニケーション	1名
				・アート専門学校	1名
				・TBC小山校	1名
				・日本美容専門学校	1名
				・新宿医療専門学校	1名

主な大学合格者数

(年度は入試年度です。)

(主な国立大学)

大学名	R7 年度	R6 年度	R5 年度	R4 年度	R3 年度
東 北	0	1	0	0	0
山 形	1	1	3	4	0
福 島	3	2	2	7	5
茨 城	16	22	11	24	24
筑 波	3	4	5	2	4
宇 都 宮	11	9	12	13	15
群 馬	1	2	2	0	4
埼 玉	6	3	4	8	6
千 葉	2	1	0	0	3
東 京 外 語	0	0	0	1	0
東京科学(東京工業)	1	0	0	0	0
東 京 学 芸	0	0	0	2	0
横 浜 国 立	0	0	0	0	1
そ の 他	5	7	9	5	11
国 立 大 計	49	52	48	66	73

(主な私立大学)

大 学 名	R7 年度	R6 年度	R5 年度	R4 年度	R3 年度
国際医療福祉	25	17	15	8	12
獨 協	15	13	21	18	21
文 教	23	25	14	16	17
青 山 学 院	0	1	4	3	3
学 習 院	2	3	1	2	2
北 里	5	5	5	3	5
慶 應	2	1	1	1	1
國 學 院	2	1	4	10	1
駒 澤	13	10	9	7	7
芝 浦 工 業	6	2	1	3	3
上 智	2	0	0	0	0
成 蹊	2	4	2	6	4
成 城	2	2	1	4	1
専 修	13	9	9	9	13
中 央	7	4	8	7	9
津 田 塾	1	0	0	2	1
東 京 女 子	4	8	4	3	1
東 京 理 科	2	1	5	2	2
東 洋	26	43	39	49	62
日 本	20	28	27	50	29
日 本 女 子	2	3	2	1	3
法 政	6	6	4	17	4
明 治	2	4	0	12	8
明 治 学 院	6	7	4	9	3
立 教	4	3	7	6	5
早 稲 田	4	0	0	0	0
そ の 他	290	256	301	338	332
私 立 大 計	486	456	489	579	544

(主な公立大学)

大 学 名	R7 年度	R6 年度	R5 年度	R4 年度	R3 年度
茨城県立医療	3	4	2	0	2
高 崎 経 済	3	3	1	4	4
東 京 都 立	0	0	1	2	0
横 浜 市 立	0	1	0	0	0
都 留 文 科	1	0	2	1	0
そ の 他	13	4	7	15	11
公 立 大 計	20	12	11	21	17

進路決定先人数

年 度	国公立大	私 立 大	短期大学	専門学校	就 職	未定・他	卒業者数
R 7	62	155	1	9	0	13	240
R 6	60	139	1	17	1	10	228
R 5	54	155	2	7	1	17	236
R 4	71	160	1	9	1	23	265
R 3	87	156	0	12	2	16	273

*～R4 7クラス
R5～ 6クラス

令和8年度大学入学共通テスト平均点

科目	国 語	地理総合 地理探究	歴史総合 日本史探究	歴史総合 世界史探究	公 共 政治・経済	数 学 I 数 学 A	数 学 II 数 学 B、C	物 理 基 礎	化 学 基 礎
本 校 平 均	113.9	63.0	58.4	57.8	56.8	38.7	42.8	33.3	24.2
全 国 平 均	116.1	64.2	64.2	62.8	65.9	50.6	58.9	36.4	30.2
茨城県平均	115.8	61.0	59.2	59.3	59.3	43.0	48.0	34.0	27.2

科 目	生物基礎	地学基礎	物 理	化 学	生 物	英 語 リーディング	英 語 リスニング	情 報 I
本 校 平 均	34.5	25.2	40.4	49.5	53.2	60.2	53.2	53.1
全 国 平 均	37.7	29.3	47.5	59.6	56.7	64.8	56.4	59.8
茨城県平均	36.2	26.5	43.2	51.5	51.2	60.4	54.1	54.9

*全国平均は大学入試センターの中間集計、茨城県平均は高教研の集計を記載しています。

各学年の現状

一年次概況

一年次主任 佐藤 俊宏

一年次主任を務める佐藤です。下館一高では昨年までの九年間、特活部長として主に学校行事の運営に携わり、行事を通して生徒が成長していく様子を見届けて参りました。

十年目にしてはじめて年次の職員になったので新鮮な気持ちで勤務しております。入学式後の年次集会で生徒の前で「成功と失敗の共通点は『Challenge(挑戦)』することであるが、挑戦することが自分自身に『Change(変化)』をもたらす、Chance(新しい可能性)を生むので自分を信じて前に進もう!』と話しました。私は高校生活が人生で最も成長できる期間だと確信しているためです。

私は幼少期より気が弱く、じめを受け続け悔しい思いを抱き続けておりましたが、高校から真剣に取り組んだ柔道によって自信を持つことができました。その一つの自信から他のことにも挑戦する意欲が生まれました。両親にも歯痒い思いをさせ、心配をかけましたが、長い目で見守って

紫西会報

もらえたおかげで父の母校で

ある下館一高に勤務することができているのだと感謝しています。(少しは親孝行ができています。)

一年次の生徒の皆さんにも「どんなことに努力した(頑張った)か?」と聞かれた時に自分なりに自信を持って答えられる高校生活を送って欲しいと思います。

一年次では校内外での様々な行事を経験し大きな刺激を受けることができました。キャリア教育の一環として行った十月初めの「企業訪問」。来年度の文理・進路選択に向けた「文理選択説明会」「進路講演会」では様々な方から貴重なお話を伺い参考にすることができました。十一月終わりの「芸術鑑賞」では本物の芸術のすばらしさを体験させていただきました。二年次から文理に分かれて将来の進路実現に向けて進んで行きますが、可能性に満ちた生徒の皆さんと学校生活を送ることができると「感謝」の気持ちを忘れずに支援して参ります。よろしくお願いいたします。

二年次概況

二年次主任 酒寄 和記

高校二年生としての一年がまもなく終わろうとしています。この一年を振り返ると、生徒たちは日々の授業や学校行事、部活動などを通して、一人ひとりが多くの経験を積み、心身ともに大きく成長した一年となりました。

その成長をもっとも感じた十月の修学旅行では、沖縄本島・八重山諸島方面で実施しました。天候が心配されましたが、すべての行程で晴天に恵まれ、特に他校で実施することが稀な八重山諸島の研修は、生徒の心に深く刻まれる貴重な体験となりました。

エメラルドグリーンに輝く海。色とりどりの熱帯魚が泳ぎ回るサンゴ礁。多様な生物を育むマンクロープの森。赤瓦の屋根と白砂の道の街並み。私たちが家族のように迎えてくれた現地の方々。訪れた石垣島、西表島、竹富島はまさに楽園でした。

しかし、その美しさに包まれながらも、沖縄がたどってきた重く、厳しい歴史も目にしてきました。沖縄に残る戦跡は、かつてこの穏やかな海と豊かな自然が戦火に巻き込まれ、多くの尊い命と日常が

失われたという現実を知りました。平和の尊さと、今ある日常が決して当たり前ではないことを深く考える機会となりました。

生徒主体で組み上げた旅程のもと、豊かな自然や歴史・文化に触れながら仲間と時間を共有し、協調性や責任感をもって行動する姿が随所に見られました。この修学旅行で得た経験は、今後の学校生活を支える大切な糧となったはずです。

来年度はいよいよ高校生活の最終学年を迎えます。これからは進路選択がより具体的なものとなり、本格的に大学受験に向き合う時期となります。これまでに身につけてきた学習習慣や姿勢を土台に、自らの進路についても主体的に考え、計画的に行動することが求められます。

受験に向かう道のりは決して平坦ではありませんが、努力を重ねた時間は、確かな力として生徒たちを支えてくれるはずです。それぞれが自身の課題を見つめ直し、新たな目標に向けて歩み出すことを期待しています。

今後も職員一同、生徒一人ひとりの成長と進路実現に向け、丁寧な寄り添いながら指導・支援を行ってまいります。

よろしくお願いたします。

三年次概況

三年次主任 海老澤 淳子

大学入学共通テストまで約一月となりました。卒業後はそれぞれが別々の世界に旅立っていきます。受験目前の今、生徒達は合格を目指して一生懸命に勉強しています。既に進路が決まっている生徒もまた、次のステージに向けて、努力し続けています。

さて、私たちの年次は附属中の卒業生が初めて入学し、新たに単位制となった下館一高の一期生です。他の中学校とは少し違った中学三年間を過ごしてきた附属中学生、他の中学から入学してきた生徒たちでのスタートは、少しこれまでとは違っていました。高校一年生だけれども、既に本校に慣れ親しんでいる附属中学生の存在は大きかったです。うまく打ち解けあえるだろうかと不安を抱えながらスタートでした。

内進生は最初から緊張感はありません。リラックスした印象でした。それが良い効果をもたらして、打ち解けるのが早く、自分らしさを表現する生徒が多く出てきました。部活動、執行部、海外語学研

修へ応援団、ちくせいヒアフェス等、いろいろなことにチャレンジする年次となりました。特に、人を動かしたり、まとめたりのリーダーとしての活動は簡単なことではありません。とても苦労しながら、悩みなが、それでもみんなのためにと働く姿を多く目にしました。

また、高校最後の行事となった今年度のクラスマッチでは生徒たちの成長を感じました。全力で戦って、勝てば喜びいっぱいですが、負ければ悔しさでイライラもします。でも戦いの後に、勝ち込む友人にそれとなく近づき励ましたり、敗者が勝者を称えたりする場面がありました。ほほえましく感じ、胸に熱いものがこみ上げてきました。人を思いやる心や敬う心で、人は豊かになれる。そんな大人になっていけると思わせてくれる瞬間でした。

受験は孤独な戦いですが、同じように努力している仲間が存在は大きな力となるでしょう。一人でも多くの生徒がやりたいことをやり切って卒業できることを願っています。



部活動報告

全国大会出場

ライフル射撃部

・第63回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会
エアライフル男子個人 出場 石島 憲仁（本校附属中）
チームライフル女子個人・団体 出場 針田 朱里（本校附属中）
荒田 心結（結城中）
大和田 怜奈（明野中）

文芸部

・第24回りんり俳句大賞夏・秋の部 高校生の部
小林 澤央（本校附属中）
谷島 希明（長沼中）

・第三十六回おいお茶新俳句大賞
佳作特別賞 小林 澤央（本校附属中）

・第二十四全国高校生短歌大会（短歌甲子園2025）出場
菅 初葉（本校附属中）
谷島 希明（長沼中）
小林 澤央（本校附属中）

理科部

・第69回日本学生科学賞 中央審査（全国審査） 出展
梅澤 瑚子（結城南中）
榎戸 葉南（秀峰筑波）

関東大会出場

水泳部

・第76回関東高等学校選手権水泳競技大会
一五〇〇m自由形、四〇〇〇m自由形 出場 友部 琉斗（本校附属中）

ライフル射撃部

令和7年度関東高等学校ライフル射撃競技大会第5回関東高等学校ライフル射撃選手権大会
エアライフル男子個人 出場 石島 憲仁（本校附属中）
チームライフル女子個人 第4位入賞 大林 莉緒（明野中）
チームライフル女子個人・団体 出場 針田 朱里（本校附属中）
荒田 心結（結城中）
大和田 怜奈（明野中）

登山部

・令和7年度第69回全国・関東高等学校総合体育大会登山競技 男子・団体出場
令和7年度第69回全国・関東高等学校総合体育大会登山競技 女子・団体出場

写真部

・令和7年度関東地区高等学校写真展 東京大会 出展 荒井 美咲（本校附属中）

高校部活動紹介

1 目標
2 部員人数
（うちマネージャー数）
3 活動場所
4 活動日

硬式野球部

1 夏の甲子園出場という目標に向かって一人一人が日々の練習に全力で取り組んでいます。
2 二十三人（四人）
3 グ라운드
4 火曜日・日曜日



軟式野球部

1 少人数ながらも全員が高い意識を持ち、全国大会出場を目指す。
2 七人（一人）
3 グ라운드
4 火曜日から土曜日



サッカー部

1 県大会ベスト16を目標に活動しています。また、巡回指導（6、9、11月）も活動しています。
2 二十一人（四人）
3 グラウンド
4 火・土曜日



陸上部

1 部員全員で切磋琢磨し、関東大会、全国大会に出場する
2 十三人（一人）
3 グラウンド、特別棟周辺、外周
4 月、火、木、金、土曜日



男子バスケットボール部

1 県ベスト8維持、県ベスト4入りすること
2 十五人（二人）
3 体育館
4 火曜日・日曜日



女子バスケットボール部

1 地区大会優勝、県ベスト8
2 十人（二人）
3 体育館
4 月曜日以外



男子バレーボール部

1 普段の練習から基礎を固め、チーム全員で県大会ベスト8以上を目標に日々練習に取り組んでいます。
2 二十人
3 体育館
4 火・木・土・日曜日



報 会 西 紫

女子バレーボール部

- 1 攻守一体を大切に、県大会出場を目標として仲間と協力しながら練習に励んでいます。
- 2 六人
- 3 体育館
- 4 水曜日以外



卓球部

- 1 団体戦で県ベスト16を目標に練習しています。
- 2 十三人
- 3 卓球場
- 4 火から土



バドミントン部

- 1 男女ともに団体の県大会出場
- 2 二十六人
- 3 体育館、下館トレーニングセンター
- 4 月水金、土か日



男子ソフトテニス部

- 1 団体戦、個人戦共に県大会出場
- 2 十二人
- 3 テニスコート
- 4 火、金曜と土日のどちらか



女子ソフトテニス部

- 1 個人はそれぞれの目標に向けて、団体は県出場を目標に日々練習に取り組んでいます。
- 2 三人
- 3 学校のテニスコート
- 4 火、金曜、土日のどちらか



ハンドボール部

- 1 県大会出場
- 2 十二人(三人)
- 3 ハンドボールコート
- 4 火から金、土曜または日曜



ライフル射撃部

- 1 一人一人が自分の目標を持って日々活動し、関東大会や全国大会出場を目指して頑張っています。
- 2 七人
- 3 旧定時制給食堂、茨城県営ライフル射撃場
- 4 毎週火、金、日曜日



硬式テニス部

- 1 県大会出場を目標に、心身を鍛えながら練習に取り組んでいます。
- 2 二〇人
- 3 県西公園テニスコート
- 4 水・木・土・(日) 曜日



剣道部

- 1 積極的な態度かつ正しい剣道を目指し、日々稽古に励んでいます。
- 2 三人
- 3 格技場一階
- 4 火曜日から土曜日



柔道部

- 1 柔道の基礎的な体・技・心を探求する。
- 2 五人
- 3 格技場二階(柔道場)
- 4 月・水・木・金・土



弓道部

- 1 精神を落ち着かせて、1本1本丁寧に引く
- 2 二十四人
- 3 弓道場
- 4 火曜、土曜



登山部

- 1 夏山アルプスの登頂を目指し、登山時の行動と撤収を速く行う。
- 2 十九人
- 3 物理室
- 4 火曜日、水曜日、木曜日



ダンス部

1 部員一人ひとりが同じ目標に向かって、互いを高め合いながら練習することとを心がけています。

- 2 二十人
- 3 紫西会館
- 4 火、水、金、土



水泳部

1 大会でベストタイムを出せるよう各自練習に励んでいます。

- 2 三人
- 3 各スイミングクラブ
- 4 各自



空手道部

1 勉強とも両立しながら、自分の演武に悔いが残らぬよう頑張ります！

- 2 一名
- 3 外部の道場
- 4 火曜・土曜



書道部

1 全国高等学校総合文化祭の出場

- 2 十二人
- 3 第二講義室
- 4 水曜日・木曜日



茶華道部

1 茶道の美しい所作を学び、感謝の気持ちをこめておもてなします。

- 2 六人
- 3 茶道室
- 4 月二回火曜日



理科部

1 好奇心と探究心で実験や探究活動を行い、夏と冬には天体観測の合宿に参加しています。

- 2 九人
- 3 化学室と生物室
- 4 木曜日



美術部

1 創作活動を楽しみながら、県展への出展を目標とし、技術の向上に取り組めます。

- 2 十六人
- 3 美術室
- 4 木曜日



放送部

1 Nコンという放送部の大会で、全国大会出場を目標に日々楽しく協力しあっています。

- 2 四人
- 3 放送室
- 4 毎週火、木曜



写真部

1 人の心を動かすような写真を撮れるように、日々写真を撮っています。

- 2 十四人
- 3 自宅、決めた撮影場所
- 4 各自



軽音部

1 文化祭、地域イベントに出演する

- 2 二十八人
- 3 保健室前部室棟
- 4 バンド単位で週一程度



ボランティア部

1 様々な経験を通じて、自分の視野を広げるなどの自己成長につなげつつ、社会貢献をする。

- 2 十一人
- 3 第二講義室
- 4 月曜のお昼休み



チアリーディング部

1 野球応援やイベントを通して元気や笑顔をお届けすることです。

- 2 十九人
- 3 体育館ステージ
- 4 火、水、木、金



中高合同部活動

吹奏楽部

- 1 吹奏楽コンクール東関東大会出場。各種コンテストや県の選抜吹奏楽団のオーディションの練習にも励んでいます。

- 2 高校二十五人、中学五人音楽室
- 3 火曜日・土曜日(日曜日)

文芸部

- 1 全国優勝を目指し日々言葉と向き合い推敲を重ね、より良い句や歌が作れるよう精進しています。

- 2 高校生五人 中学生四人LC教室
- 3 毎週水曜日

英語部

- 1 4技能向上のため、日々英語の練習をしています。また、ネイティブの先生との交流も行います。

- 2 高校生八人 中学生七人多目的室
- 3 火曜日 金曜日



附属中学校部活動

陸上部・剣道部・卓球部
バレーボール部(男女)

クリエイティブ部
理科部

学 校 生 活



令和7年度 下館紫西同窓会総会開催



て、各支部の活動状況について報告がありました。

また、吉田勉氏（常磐大学教授 S55年卒）により、「人口減少社会での自治体行政のあり方―主として茨城県政の事例を踏まえて」という演題で講演会が開かれました。

その後、懇親会が和やかに行われました。選任された役員は以下の通りです。

会長 林 廣明（S40年卒）

副会長 谷島 英一（S40年卒）

関 正樹（S57年卒）

水越 正一（S47年卒）

古澤 諭（S50年卒）

渡辺 進（S50年卒）

横島 義昭（S50年卒）

小嶋 勝五郎（S53年卒）

小葉 拓巳（S54年卒）

監事

石上 信男（S43年卒）

小島 信一（S50年卒）

幹事

櫻井 康博（S47年卒）

津田 むつみ（S55年卒）
吉田 勉（S55年卒）

理事

筑西支部長

宮川 昌己（S43年卒）

桜川支部長

伊東 留真運（S44年卒）

結城支部長

赤荻 治久（S44年卒）

筑西市役所支部長

高島 健二（S55年卒）

紫西校友会支部長

久下 英彦（S60年卒）

常陽銀行支部長

佐藤 秀明（S62年卒）

筑波銀行支部長

高田 徹（S57年卒）

なお、古澤、渡辺、横島、小嶋、小葉、吉田の各氏は新任です。



同窓会・クラス会報告

8年ぶりに同窓会を開催！

昭和53年3月卒の同窓会を恩師の門井了先生を迎え、81名の参加者のもとに令和7年4月26日、ホテルニューつたやにおいて開催しました。

従来は夏季オリンピックの翌年に実施していましたが、コロナ禍の影響でしばらく中断し、8年ぶり、通算6回目の開催となります。

高齢者の仲間入りを果たした私達。早々と仕事をリタイヤし、悠々自適に興味を楽しみました。

昭和53年3月卒（第54回卒）卒業生同窓会幹事代表

石橋 良章

2025年7月22日、結城市の鮎・割烹 福松にて、下館一高1969年（S44年）入学時のP1B、P2Bクラス会を開催しました。私たちはほとんどが6回目の干支を迎える72歳になりますが、恩



師の国友先生も91歳にしてお元気にご参加いただきました。熱血教師であった国友先生

が30代半ばの最も元気のあった時代の薫陶を受けた我々は仲が良く、クラス会を開催するのは卒業以来4回目となります。会が進むにつれ、私たちの会話は自然と16歳、17歳だった高校1〜2年時代に戻り、懐かしい思い出話に花が咲きました。

当時入学した48名のうち、残念ながら判明しているだけで5名がすでにご逝去されていますが、残るものうち半数以上の24名が今回のクラス会に参加しました。P2B時



S44年入学 渡辺幸次

次回開催は未定ですが、暑い夏と寒い冬は避けて氣候の良い季節に開催することとし、皆の永寿嘉福と母校の益々の発展を祈念し散会しました。

最後のホームルーム(HR)で国友先生が朗読してくれた宮沢賢治の『春と修羅』の朗読もあり、まるであの頃のHRが再現されたかのような雰囲気となりました。

今回が最後のクラス会だと思つて「P2B会、final」の呼称でのクラス会開催でしたが、参加した皆の「この集まりを永遠に続けたい」という強い思いが感じられる一日となり、「P2B会、forever」と改称し、最後の5人(笑)になるまで続けようということになりました。

支部活動報告

筑西支部

筑西支部 宮川 昌己
4月に35名の出席により、令和7年度の定期総会・懇親会を開催しました。



9月には、下館一高教育活動支援基金へ10万円の寄付を行いました。

11月には、31名の出席により、研修会・懇親会を開催しました。研修会では、医療法人宮田医院理事長の宮田信之氏(昭和49年卒)から「健康寿命を延ばすには」と題する講話をしていただきました。懇親会も盛り上がり、大変有

意義な時を過ごすことができました。

来年度も、支部の活動をより充実させたいと考えています。

筑西市にゆかりのある在住、勤務、出身)方の支部への入会をお待ちしております。(連絡先 0296・22・3865)

桜川支部

桜川支部 伊東 留真運
令和7年3月に支部総会の開催準備のため桜川市生涯学習センター「さくらす」において支部役員会を開催。

令和7年度下館紫西同窓会桜川支部総会を5月24日、桜川市岩瀬の阿曾坊店にて開催しました。

来賓に下館紫西同窓会副会長である谷島様、下館第一高等学校教頭先生中尾様を御招きし、ご挨拶をいただきました。谷島副会長からは、紫西同窓会の活動、紫西同窓会会館の改修、その後の生徒の利用状況等についてお話をいた

だき、教頭先生からは館一の生徒の活動状況の報告がありました。

総会の議事は令和6年度桜川支部事業報告、決算報告、令和7年度事業計画案、予算案について審議いただき承認されました。その後、懇親会では、昔話に盛り上がり穏やかな雰囲気の中で歓談が続き、終始笑顔の絶えない懇親会となりました。

令和7年9月27日には、下館紫西同窓会総会に支部からは私を含め3名が出席、役員の改選等がありました。

一方、桜川市は令和7年10月19日、桜川市長選挙があり3名の方が立候補し、4期目を目指した現職の大塚市長が当選、「元氣なまち桜川へ」と、活力ある桜川市を創ってくれることと思います。

また、桜川市は市政20周年を迎え、種々様なイベント等が開催されています。

(連絡先 0296・76・2401)

結城支部

結城支部 赤荻 治久

令和7年度下館紫西同窓会結城支部総会が令和7年5月24日、「結城つむぎセンター」にて会員32名の出席に加え、木村館一校長、林紫西同窓会会長の臨席を賜り、開催されました。

議事終了後、結城商工会議所経営指導員の野口純一氏により、「結び、つながる・ひろがる結城のまちづくり」の演題で講演を頂きました。

氏は「結びプロジェクト発起人」でもあり、当商工会議所が全国商工会議所のコン



クールで、「きらり輝き観光振興大賞」の栄誉に輝いた功労者であり、熱意溢れた語り口と、プロジェクトを用いた解り易い映像を用いた講演で、地元でありながら知りえなかった昨今の情報共有を果たすことができました。

講演終了後の懇親会では、設立後4年目ともなり、より親しくなった同窓生同士、大変盛り上がった時間を送る事が出来ました。

人生は「人との出会い」で様々に変わっていくものだと思います。この会の目的である「業種や年代を超えた交流や親睦を深める」という目的を明確にし、共有する事ができれば、より意義深い会になると思います。本市出身の方にとどまらずにゆかりのある方の入会をお待ちしておりますので、各会員からの「お声掛け」を是非ともよろしくお願いいたします。

(連絡先 FAX 0296・32・3711)

紫西同窓会活動報告

紫西会館の 改装工事

創立100周年記念募金に
際し、皆様から賜りました温
かいご支援のおかげをもちま
して、紫西会館内部の改装工
事を無事に完了することがで
きました。心よりの御礼申し上
げます。

今回の改装工事では、一階
男子浴室を撤去し、トイレの
拡張およびバリアフリー化を
行いました。また、二階和室
二部屋を畳からフローリング
へと改修し、机を設置するこ
とで、在校生が学習室として
利用できる環境を整えました
従来のように合宿等で使用
することはできなくなりました。

たが、時代や生徒のニーズに
即した、新しい紫西会館へと
生まれ変わりました。
また、同窓会室の内装につ
いても収納やフロアーを改装
し、使いやすくなりました。
なお、老朽化が進んでいた
非常階段および二階ベランダ
の手すりにつきましては、県
の修繕費用により塗装工事が
行われ、きれいに整備されま
した。

部活動・学習支援 事業

今年度、全国大会、関東大
会に出場した部活動とオース
トラリア海外研修参加者に対
して、支援金を贈呈致しまし
た。

部活動
全国大会出場

ライフル射撃部 文芸部
理科部

関東大会出場

水泳部 登山部 写真部

オーストラリア海外研修参加
生徒44名(附属中生20名、高
校生24名)

書籍の購入

令和7年度下館紫西同窓会
総会において、津賀壮司様(昭
和29年3月卒)より、本校の
教育活動のさらなる充実のため、図書館蔵書購入費用の寄
付がありました。

寄付は、洋書や文学全集等
の購入に充てられ、12月16日
に購入書籍が図書館へ納品さ
れました。紫西同窓会からも
感謝申し上げます。

令和七年度

同窓会学年幹事

- 一組 来栖栄史
渡辺天揮
- 二組 片寄隼樹
八代美弓
- 三組 北澤風花
藤代かりず
- 四組 大林莉緒
松山海斗
- 五組 柴咲菜
直井瑛麻
- 六組 飯沼昭太
石濱一翔

編集後記

今年度は、初めて附属中出
身の同窓生を含む二三三名を
迎えることとなりました。創
立百年を超え、新たな一高が
動き出した一年であったよう
に感じます。

社会に目を向けると、女性
総理大臣の誕生や日経株価が
五万円台を超えるなど、「初
めて」が相次ぎ、新しい時代
の幕開けを感じさせる一年で
もありました。

年が明けてすぐに、うれし
いニュースが届きました。本
校昭和56年卒の菅野(旧姓菱
沼)公子さんの句が、宮中で
行われる歌会始に選ばれまし
た。菅野さんのご活躍は、私
たち同窓生のみならず、在校
生にとっても大きな励みとな
りました。

今回もご多忙の中、快くご
寄稿くださった皆さまのご協
力により、紫西会報第56号を
お届けすることができました。
この場を借りて、心より御礼
申し上げます。(館記)

編集委員

館野 友一
佐次 康子

菊地 宏之
福田 侑平

堀 月琴乃
鈴木写真館

写真提供

鈴木写真館



1階女子トイレ



1階男子トイレ



2階学習室II



2階学習室I



ベランダ



1階同窓会室

